

会 議 記 録

会議名称	第1回 杉並区みどりの基本計画検討委員会	
日 時	令和5年8月28日(月) 18:00 ~ 20:15	
場 所	杉並区役所6階第7会議室	
出席者	委員	9名
		河村委員、佐藤委員、竹内委員、和田委員、石川委員、稲田委員、武井委員、野田委員、峰岸委員
	事務局	5名
		都市整備部土木担当部長：土肥野 都市整備部みどり施策担当課長：吉野 都市整備部みどり公園課長：大場 都市整備部みどり公園課みどりの計画係長：北澤 都市整備部みどり公園課みどりの計画係：長谷川
傍聴者	3名	
資 料	○次第 ○杉並区みどりの基本計画検討委員会（第1回）資料 ○（別紙1）杉並区みどりの基本計画検討委員会名簿 ○（別紙2）杉並区みどりの基本計画検討委員会運営要綱	
会議要旨 1 開会 ○事務局 杉並区みどりの基本計画改定の経緯について説明。会議録を作成し区公式ホームページで公開するため録音すること、傍聴人3名であることについて説明。 2 委員自己紹介 ○各委員 所属団体や活動していることなどを自己紹介（省略）。 3 議題 ○事務局 杉並区みどりの基本計画とは、杉並区のみどりの現状と課題、現行計画における取組の実績と評価、計画改定までの流れ、目指す計画のイメージ、他自治体の特色ある計画改定例		

について説明。

- 進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。
- 委員 平成26年に緑化対策費が増加している理由を教えてください。
- 事務局 特別緑地保全地区内で公園を整備するにあたり、用地取得費用を緑化対策費に計上したことから当該年度だけ増加しています。
- 委員 雨水流出抑制目標対策量の算出方法について教えてください。
- 事務局 雨水流域対策について、杉並が担う部分を面積で割った数値だったと記憶しています。
- 委員 計画作成にあたり、委員としての役割がイメージできないので教えてほしいです。
- 事務局 区から目標や基本方針の案を提示するので、検討委員会では専門的な視点からご意見いただきたいと思います。新しい知見を取り入れた計画とするため、多くの意見をいただきたいです。
- 委員 改定スケジュールの中で、区民意見の収集とパブリックコメントがありますが、違いについて教えてください。
- 事務局 従来のパブリックコメントは、みどりの基本計画の素案がまとまった段階で区民の皆様からのご意見をお聞きしていましたが、今回は素案がまとまっていない段階から意見を収集したいと思い、「区民意見の収集」を設定しました。
- 委員 従来のみどりの基本計画はみどりや植物について特化していました。しかし、グリーンインフラは、自然の機能を生かして地域の社会課題である教育、福祉、医療、観光、生物多様性、生態系保全を解決していくという考えです。となると、現行のみどりの基本計画に捉われない新しい計画を考えていく必要があると思います。今後のみどりを生かしたまちづくり計画とするため、事例として町田市があります。他部署と連携した計画を作るべきだと考えますがどう思いますか。また、森林環境譲与税の区の取り扱い方について知りたいです。区長も参加型予算の1つである森林環境譲与税について、区民から広く意見を聴いていると思います。民地のみどり、都市農地、屋敷林、市民緑地、体験型農園に中間支援団体があれば使うことはできないのか教えてください。
- 事務局 計画については、みどりの視点の中で新しい段階に進める計画を作っていきたいと考えています。
- 委員 まちづくりの中で、みどりに関わっていきたい人もいると思います。広い視野で進めていただけるとよいのではないのでしょうか。
- 事務局 森林環境譲与税については、区民参画型予算の中で今後どのように進めていくのか、模索しているところであるほか、区内では使いづらいものであったりするなど課題はあります。
- 委員 森林環境譲与税は、みどりの税金ですので、区民目線だとみどり分野が所管のように思えます。行政としての縦割りはあるかと思いますが、みどりの基本計画の中で森林環境譲与税の使い方について積極的に施策を打ち出していくことを検討して下さい。また、行政の考え方もあるかとは思いますが、今この場には区民を含めた委員がいます。積極的に広く委員の意見を聴き、活発な議論を望みます。

- 事務局 従前の縦割り行政は改善されつつあると思っています。計画の中に、様々なアイデアを取り込むため、必要に応じて関係各課をこの場に呼ぶこともできますので、積極的な議論をしたいと思います。また、今までの取組みについて、他区との比較についても検証したいと考えています。森林環境譲与税については、杉並には森林がないため、普及啓発、木材の使用について従来考えていましたが、新しい計画の中で、Co2 吸収など新しい見方について提案できれば、他の事業に波及させることはできるかもしれません。その提案について、今後考えていきたいと思っています。
- 委員 景観まちづくり審議会では、みどりの基本計画の改定内容を景観まちづくりの制度にも反映させるむね説明がありました。みどりの範囲にとどまらず考えていけば、今後まちづくりに関わる他部署にも波及するような計画になると思っています。目指す計画のイメージについては、どのように計画を実装していくのか、やり方について述べられていますが、まず議論すべきは、今の時代に合わせて、どこの部分を変えていく必要があるのかといった、3～5つの改定の視点ではないでしょうか。この10年の経過を考えると、気候変動が実感されるようになりました。既に現行計画に、流域対策とみどりを連携させていくという考えがあるのはよいと思います。また、コロナの間にみどりに癒された、農地での活動や家の花壇の手入れなどでコミュニケーションが生まれたなど、ウェルビーングが大事と実感されるようになりました。杉並区で先進的に取り組んでいる農福連携、屋敷林での活動をクローズアップするのはよいのではないのでしょうか。
- 委員 防災という考えは必要だと思います。私の意見になりますが、100年単位で神田川の両脇の土地を購入し、水が氾濫したらそこに貯留する緑地や氾濫原にするという方法はないのでしょうか。現在、明らかに雨量は増えており、今後中小河川の氾濫も増えると思います。
- 委員 農協と区は、生産緑地内において、震災を機に、災害時にプレハブハウスを建てる協定をしているはずですが、原風景を守るといった情緒に訴えるだけではなく、災害でも農地は活用できるといったことを計画に盛り込むことで区民の皆さんにも共感してもらえと思っています。
- 委員 今年で関東大震災から100年になります。震災時の延焼防止の面から農地は必要だと思います。
- 委員 農地は雨水浸透の面からも効果が高く、そういった面からも貴重です。
- 委員 宅地の地面は締め固められていて雨水が浸透しないので、改良する取組があります。
- 委員 みどりの基本計画の改定の経緯について、現在の状況を整理した方がよいと思います。屋敷林、農地については、相続税などある中でよく残っていると思いますが、一度整理してみたいかがでしょうか。また、大規模マンション開発などで緑化計画書を提出していると思います。開発後に確認をしてみると、適正に緑化しているところと、そうでないところがみられます。区職員が全て確認することは難しいのかもしれませんが、区民とともに確認していく方法もあるのではないのでしょうか。次に、みどりの意識向上のために副読本を配布していると思います。学校の教育現場は大変ですので、どうみどりの意識向上のために教育に反映させていくのか調整していく必要があると思います。次に、目指す計画イメ

ージの1つとして、ビジュアル的に示すのは分かりやすいと思います。しかし、ビジュアルを意識するあまり、伝えたいことをおろそかにしないことを考える必要があると思います。次に、事例は近隣区だけでなく、本や海外の事例も参考にしながら、イメージを深めて計画を進めてはどうでしょうか。最後に、懇談会形式にすると声の大きい人のみ発言する傾向もあるため、言いたい、言い足りない人のためにメールも受け付けて、次回に列記するのがよいと思います。

- 委員 屋上緑化や壁面緑化に対してはあまり触れられていないように思います。以前は、杉並区役所でもゴーヤなど、みどりのカーテンで壁面緑化していたかと思います。屋上緑化や壁面緑化についても、もう少し踏み込んでみてはいかがでしょうか。杉並区役所のみどりのカーテンは、なぜやめられたのでしょうか。
- 事務局 台風の度に、安全を確保するために降ろさなくてはならないという手間だと思います。最近の台風は大きく、風が心配なために樹木を伐採してほしいといった要望の件数が増加傾向です。道路のような公共部は、虫による影響もあり樹木医による診断を行い、危ないと判断されれば安全確保のため、街路樹を伐採します。甲州街道では車が下敷きになる事案が発生した後、樹木を整理しています。安全のみだけでなく、公共樹木の樹形の成長イメージを共有しないと、ますます伐採される可能性もあります。気候危機や防災上のみどりと区民のみどりの安全性の兼ね合いを考えていく必要があります。
- 委員 みどりのカーテンは気温が下がるなど効果はありましたか。他自治体がしていない杉並独自の取り組みでしたし、大々的に宣伝した取り組みだったと思います。今後取り組みに盛り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。
- 事務局 気温も下がりましたし、虫もたくさん来ました。今後、検討していきたいと思います。
- 委員 屋上緑化や壁面緑化は、ヒートアイランド現象の低減効果が認められていますので、環境面からも計画に盛り込んでいくのはよいと思います。
- 事務局 集合住宅ですと、1階ごとにスクリーンにして緑化しているところも増えてきました。メンテナンスもしやすいですし、緑化技術も進歩していますので、更なる可能性は秘めていると思います。
- 委員 以前は生垣助成のみでした。今後は新しい助成について検討できればと思います。
- 事務局 建物を覆うみどりについても検討を進めたいと思います。
- 委員 今は技術が進歩し、建物にみどりを植栽することも可能ですので、考えていけたらと思います。
- 事務局 緑化計画の中で、壁面緑化をカウントする方法について考えなければなりません。緑被率のように従来の上空からみたみどりではなく、新しい視点も必要になるのかもしれませんが。
- 委員 上空だけでなく、3次元からみるみどりについて重要であると述べてはいかがでしょうか。
- 委員 緑化事業では補助金制度があるかと思います。現在使われていますでしょうか。他の区では、全く使われておらず、パンフレットを改定したりしています。杉並区ではいかがです

か。

○事務局 他区においては義務づけられた緑化基準以上しか補助しませんが、杉並区では義務付け部分にも補助していますので接道部に関しては、それなりに実績があります。しかし、壁面緑化の実績は少ないのが現状です。以前は、緑化指導の際に助成制度を紹介していましたが、現在は、PRが足りないという指摘はその通りなのかもしれません。

○委員 杉並区が今までやってきたこと、今後やっていくこと、つまり、これが足りないから今後進めていきたいと思いますということを示すと、区民に分かりやすいのではないのでしょうか。

○事務局 みどりについては、区民の間でも状況認識の異なる場合があります。見た目の良さはありますが、樹液や落ち葉が落ちることを知らない人は多いです。全ての人がみどりは好きですとっていないことを、区職員がうまく伝えることができていない面もあります。外に出る子どもの減少、親子で自然体験する人が減っていることについて、どうするのか昔から言われていました。環境の面からいうと、ごみの処理やリサイクルは、毎日の生活の中でできるので、学校でも教えやすいです。しかし、みどりについての本質的な部分について、どこまで伝わっているのか疑問に感じる場合があります。昔は農家の人が多かったため、自然と暮らしていました。しかし、自然体験がなくても生活ができる社会になったいま、自然のよさ、課題があるにしてもみどりがあることによって得られるものについて、どう理解してもらおうか課題です。

○委員 本日集まった方は、みどりについて前向きな人が多いと思います。しかし、私の家の樹木は落ち葉がすごいです。近所の家に落ち葉が入ると、掃いてくれとか毎年毎年大変だと言われます。皆みどりを好きでないという前提のもとに考えていく必要があると思います。所有しているアパートでは、蟻が家に入ってくるので対処してほしいと言われます。花壇があるのだから仕方がないと伝えましたが、どうにかしてほしいということでしたので、花壇をつぶしてコンクリート舗装にした例もあります。まず、みどりは大切だということ、情緒的ではなく、震災でも役立つという視点も入れて計画を作っていくとよいと思いました。

○委員 計画は区が作るが、住民の視点からいうと、住民には何ができるのかを考えることが重要です。杉並区の特徴は住宅街なので、みどりが少しでも出ていればいい住宅街に思えます。みどりを皆で作って出して享受するといった考えを啓発する必要があるのではないのでしょうか。長い目が必要となりますが、身近なみどりがあればみどりを認識できます。公園は少しチープな感じがします。ダスト舗装ではなく、芝を張り、そこで子どもが遊ぶことができれば、素敵な空間になると思います。また、そのような箇所が点々とあれば街並みが変わると思います。次に、学校の樹木をみると、悲しくてみじめに感じます。学校は、埃、落ち葉のクレーム対応で切っているのだと思いますが、あれだけのオープンスペースや学校林があるのですから、教育の面からもよいと思います。教育の面からも盛り込んでいくことで徐々に成果を積み上げていき、結果をだすことも大事だと思いました。また、造園の観点からいうと、30年前はガーデニング、その後生物多様性や環境というように時代の変化とともにみどりの基本計画にも反映されてきたことと思います。そうではな

く、何十年経っても変わらない杉並のみどりの本質を考え、その中で、社会情勢も考えながら、今はこれをやっていきましょうというような計画を作るとよいのではないのでしょうか。その視点で考えると、水循環の観点は重要だと思います。街中の樹木は植栽樹が小さく水不足で苦しんでいると感じます。身近な視点から大きな視点にシフトできる計画ができればよいと思います。

○委員 長い目で見て杉並のみどりや環境を考える必要があると思いました。そのうえで共生していく必要があると思います。子どもやこれから大人になる世代がどのように自然と結び付けられるのか考えなければなりません。若い世代は、植物の名前も知らないと思います。一時的な取組があったとしても、子どもたちに対するみどりの教育がなければ計画は形骸化すると思います。

○事務局 みどり公園課では、今まで公園づくりのワークショップなどを開催していましたが、ほとんど大人の集まりで子どもの意見を反映させることが少ない状況でした。そのため、現在は、子どもの意見を反映させるために、公園、小学校、児童館に足を運び、子供の意見を直接聴く取り組みをしています。子どもたちのために、自然に植物と触れ合える環境を自然に作っていくことが大事だと思います。本日、皆様は行政が後ろ向きに感じたのではないのでしょうか。それだけ難しいことがたくさんあります。その難しいことについて、真実をきちんとお伝えすることも大事だと思います。もっと公園に関われるような取り組みができればと考えています。

○委員 東京都や国のかかわり方はどうなっていますか。

○事務局 広い視点など助言を頂きたいときに、その都度連絡する形です。必要とあればお呼びしますが、現在は報告しながら情報共有していく程度だと考えています。

○委員 国土交通省が取りまとめた都市のあり方検討委員会はよい報告書ですし、環境省は OECM といった、都市のみどりについて各省庁の施策が重なってきています。その知見は捉えたうえで、計画を考えていく必要があると思います。

○委員 住民、区、事業者のやることを整理していくは大事だと思います。モニター、ボランティアの意見だけでなく、他の意見も掘り起こしていく必要があると感じました。

○委員 中杉通りは、地元の人がケヤキを植栽されたと聞いています。表参道のような大きな植栽樹ではなく、小さな植栽樹でも、今も残るこのケヤキ並木は奇跡なのでないのでしょうか。ケヤキ並木の歴史やストーリーもコラムなどで紹介できたらいいのではないのでしょうか。

○事務局 ケヤキは地元で買って植栽されたものと聞いています。当時落ち葉の要望が1件もなかったのは、地元が誇りをもっていたからだ先輩から聞いています。

○委員 各委員や事務局は、景観計画や環境基本計画についても知ったうえで、次回ディスカッションできればよりよい議論になると思いました。

○事務局 今回は、計画のイメージのご意見を伺いました。ただ、今後議論を深める中で、皆様の計画のイメージも変わっていくと思います。今日頂いた意見は、事務局で列記したうえで、情報共有したいと思います。次回は、目標の設定や基本方針の設定をしたいと思います。

次回検討委員会前にある程度、こういったことを議論したいということをお知らせしたい
と思います。また、区で計画を作るお話しをしましたが、区、区民、事業者で作っていき
たいと思っております。

3 連絡事項

○事務局 次回のスケジュールなどについて説明（省略）